

安心して子どもを産み
育てられる東京

大正大学 西郷泰之

私の提案領域

西郷泰之(大正大学)

レッドゾーン

イエローゾーン

グレーゾーン

ホワイトゾーン

提案1

提案2

提案2

すべての子どもたちのための 2つの提案



① 「待っている」だけの支援からの転換
「ホームビジティング」の導入



② 子どもたちの未来のために
オリンピックを活用

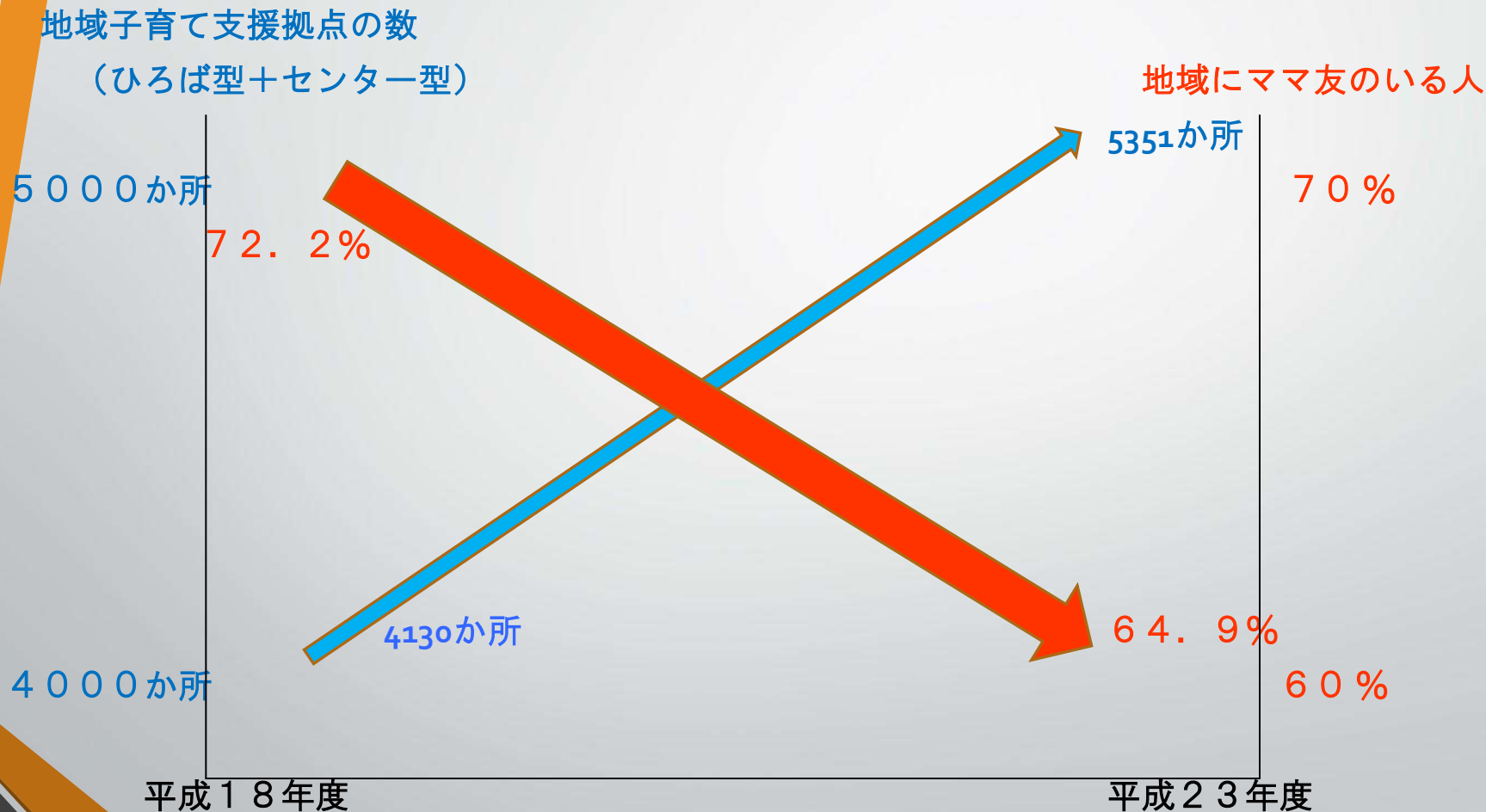
「待っている」だけの支援からの転換

「ホームビジット」の導入



「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人」[®] がいる家庭が **約1割減少** (0~2歳児の親)

ベネッセ次世代育成研究所「第2回妊娠出産子育て基本調査(2011)」



* 「子育ての相談相手が多い母親ほど、子育てへの自信が高いという傾向」も

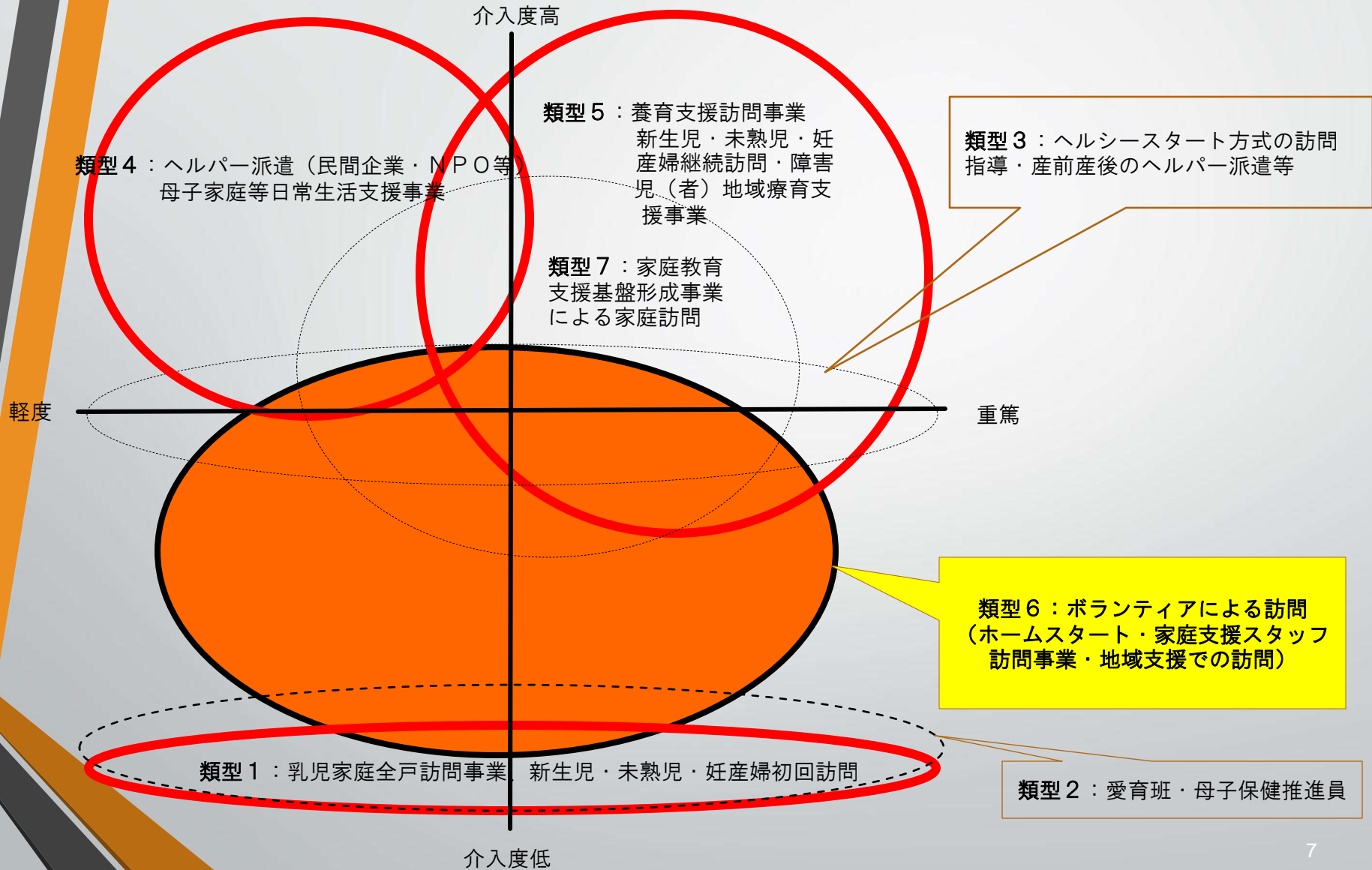
孤立して悩んでいる子育て家庭が増加

より積極的な支援(届ける支援)

**「ホームビジット」
の強化が政策課題**

親を対象とした家庭訪問支援事業・活動マップ

®



しかし、グレーゾーンへの
「届ける支援」は無い

* レッド・イエローゾーンへの支援も不十分

グレーゾーンで 虐待への進行を止めることも 「新しい」施策課題

レッドゾーン

イエローゾーン

グレーゾーン

ホワイトゾーン

**予防領域の支援例として
「ホームスタート」を紹介する**

ホームスタートの特徴 1

施策のすきま(Niche)に支援できる

地域子育て支援拠点を
利用していない孤立家庭とは
どんな家庭だと思えますか？

施策のすきま(Niche)に支援できる

●地域子育て支援拠点事業に

出てこない親・来れない親???がいるよね !

●乳児家庭全戸訪問事業で発見された

気になる家庭を発見しても継続したケアができない!!!

●養育支援訪問事業で対応できない

気になる家庭（グレーゾーン家庭）には支援できない!!!

●ファミサポ(子育て援助活動支援事業)でケアできない

親の気持ちを十分に聞けない! お金を払えない家庭はどうする?

* 母子家庭等日常生活支援事業 修学等や、疾病などの一時的な家事、保育等に対応

ホームスタートの特徴 2

市民が参画できるように支援方法は「**シンプル**」

子育て経験者が、週に1回2時間程度、家庭を訪問し傾聴と協働するボランティア活動

ホームスタートの特徴 3

安心・安全な支援システム

アセスメントからエバリュエーションまでのプロセス管理システム

ホームスタートの特徴 4

ホームスタートの**効果は高い**！

改善されたニーズの割合は89%



ホームスタートの特徴 5

「国の制度」が利用可能

利用者支援や地域子育て支援拠点事業、産前・産後ケア事業でに実施が可能

提 案

拠点による支援だけでなく届ける支援
「ホームビジテイング」の重点化

事後対応だけではなく
「発生予防」領域の充実を



子どもの未来のために オリンピックを活用

—東京から日本を変える！—

20世紀末

イギリスでは子ども達の心と体が

崩壊していった

そこで、「遊び場」と「スポーツ」推進の
トレンドを作るため
フレアはオリンピックを誘致した

でも、なぜ「遊び場」なのか？

*

遊びの効果 がわかっていた

* 運動能力・体力・免疫力・情緒の安定・知的好奇心・非認知的能力（生きる力）等の向上

日本でも「子どもの心身が危ない」

- ・幼児の微症状の中で親が気にしている1位は「子どもがイライラすることがある」
- ・幼児の親の子どもに関する日頃の悩みの1位は食事、その中でも偏食が1位
- ・半数の幼児がなかなか起きられない
- ・子どもの体力は長期的に見ると依然低い水準、子どもの骨折はここ30年で2倍
- ・文科省の調査で子どもの体力は低迷している
- ・背筋力低下で背筋力測定中止
- ・肩こり、朝からあくび
- ・高血圧(高血圧症で入院する小児の数が、この10年でほぼ2倍)
- ・肥満(30年前と比べると2-3倍に増加し各年齢の子供の5~12%に肥満)
- ・顔面制動　ほか

低体力、睡眠不足、偏食、情緒が不安定、非認知的能力の低下

危機解決の方法は？

「幼児から屋外で遊ぶこと」

外遊びの調査等から

- ・ **スウェーデンの調査**

「運動能力が高く、情緒が安定する」

パトリック・グラーン (Patrik Grahn) ら

- ・ **日本の調査**

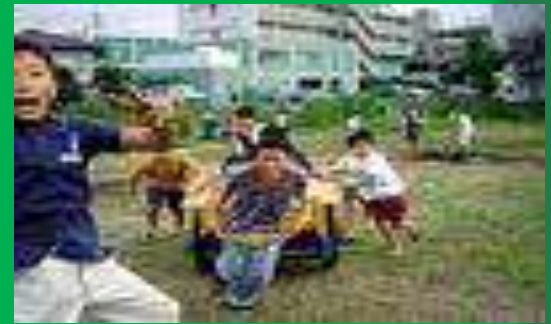
免疫力・体力・運動能力・知的好奇心・情緒の安定に効果

- ・ **子どもがやりたいことは？**

時間があれば仲間と外遊び

- ・ **日本建築学会も**

「接地」と「自然とのふれあい」重視



コラム:

子ども・子育て支援の重点時期は「幼児期」

■ The Perry Pre-school study(1962-)

- ・ 非認知的能力（創造性・好奇心・忍耐力・社会性）
- ・ 社会的投資収益率は1.15-1.17倍

■ James Joseph Heckmanの主張

- ・ 大人になってからの投資の6倍の効果

■ OECD Strong Starting i・ ii・ iii



●ECEC(Early childhood education and care)の重要性

●とりわけ幼児期はスポーツより体を使った遊びが大切

事例：世田谷区の場合

屋外遊びを
すべての幼児と子どもに！

新規事業 屋外型子育て支援中央拠点

*世田谷区とNPO法人プレーパークせたがやとの協働事業

「外遊びを全区の乳幼児親子に！！世田谷モデル」

5 屋外活動推進型子育て支援拠点 「外遊び推奨おでかけひろば」

- A. プレーパーク近隣に施設を設置し、プレーパークに毎日出かけていく（森の幼稚園型）。
- B. 空白地帯に施設を設置し、屋外の遊び場に毎日出かけていく。



- ①はじめての外遊び支援
- ②0,1,2親子の居場所づくり支援
- ③父親の育児支援・居場所づくり支援
- ④0,1,2親子対象の外遊びイベント主催
- ⑤0,1,2親子対象の子育て講座主催
- ⑥親どうしの子育てピアカウンセリング
- ⑦専任スタッフの配置
- ⑧乳幼児外遊び専門プレーワーカーの配置

4 広域的な空白地帯の対策 「プレーカー」

車に遊具を積んで、プレーリーダーとスタッフが公園に出張。空白地域を広域的にカバー。

- ①プレーパークが無い地域の0,1,2親子の初めての外遊び支援
- ②近隣幼稚園・保育園などの外遊び支援
- ③幼児サークルの外遊び支援
- ④父親の育児支援



3 各拠点からのひろがり 「プレーリヤカー」

リヤカーに遊具を積んで、プレーリーダーとスタッフが近隣公園に出張。プレーパークから徒歩20分圏内公園をカバー。

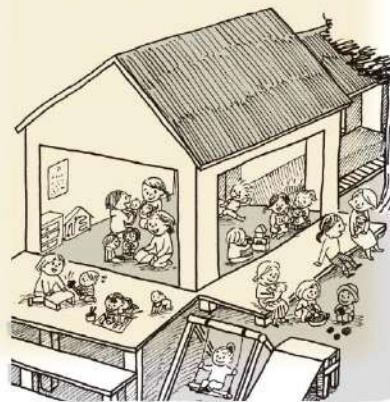
- ①プレーパークに来られない0,1,2親子の初めての外遊び支援
- ②公園での外遊びの仲間づくり支援
- ③父親の育児支援
- ④近隣幼稚園・保育園などの外遊び支援



1 屋外型地域子育て支援中央拠点 「そらまめハウス」

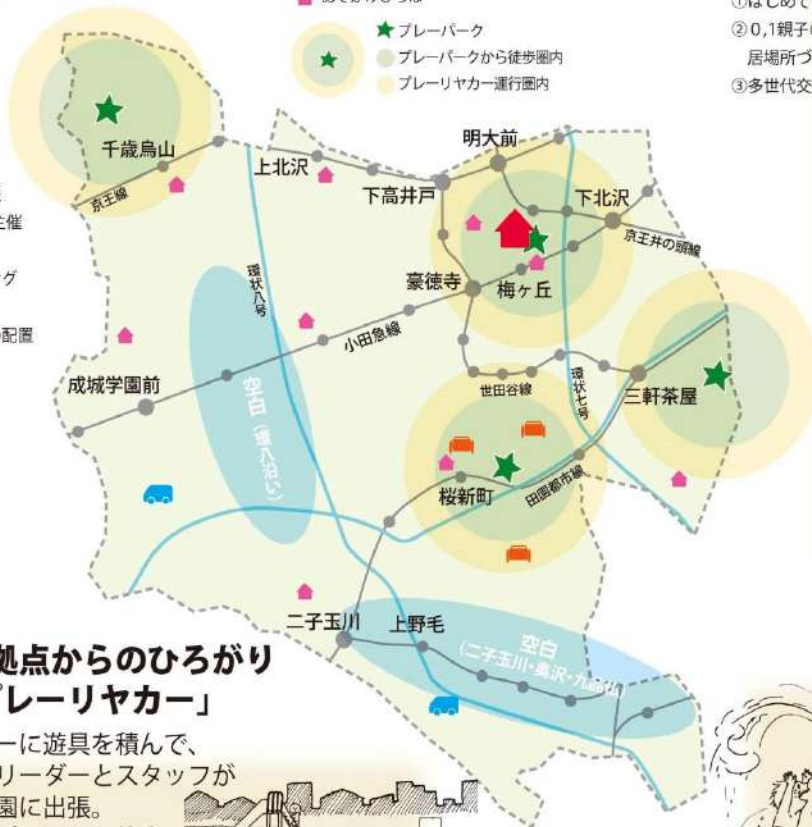
羽根木プレーパーク内乳幼児と多世代の交流拠点。

- ①はじめての外遊び支援
- ②0,1親子の居場所づくり支援
- ③多世代交流支援
- ④父親の育児支援・居場所づくり支援
- ⑤0,1親子対象の外遊びイベント主催
- ⑥0,1親子対象の子育て講座主催
- ⑦親どうしの子育てピアカウンセリング
- ⑧専任スタッフの配置
- ⑨乳幼児外遊び専門プレーワーカーの配置
- ⑩屋外型子育て支援拠点専任スタッフの研修
- ⑪乳幼児外遊び専門プレーワーカーの研修



- ①0,1,2親子の外遊び支援
- ②0,1,2親子の外遊びの仲間づくり支援
- ③0,1,2親子の屋外の居場所づくり支援
- ④0,1,2親子対象の外遊びイベント主催
- ⑤近隣幼稚園・保育園などの外遊び支援
- ⑥児童館・幼児サークルの外遊び支援
- ⑦自主保育、幼児サークルの拠点

2 屋外型子育て支援エリア拠点 プレーパーク（区内4カ所）



提 案

オリンピックで
すべての子どもたちの
心身の土台を作る！



- 「ホームビジティング」の導入
(といわけグレーゾーンの重点化)



- オリンピックを活用して
屋外での遊びで心身の土台を作る
(といわけ幼児とその保護者重点)

写真等提供

特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン（3・4・25ページ）

特定非営利活動法人プレーパークせたがや（3・15・20・23・25ページ）